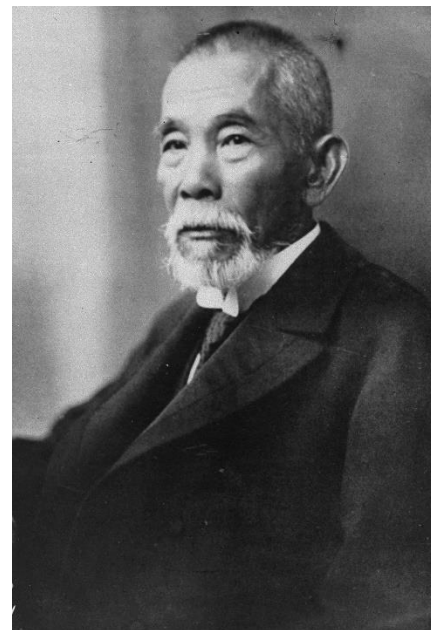


【またお前か】フードファディズムに 対するメディア接触の影響【延長戦】

-The 5th Inuyama-tribute Cognition & Behavior Meeting-

工藤 大介 (東海学院大学)
mail: d.kudo@tokaigakuin-u.ac.jp
中川 翔貴 (東海学院大学)
李 楊 (名古屋大学)



自己紹介

- 工藤 大介 (くどう だいすけ)

HP : <http://dicek.net/>

- 東海学院大学 講師

- 専門：社会心理学，リスク心理学，消費者行動

- 研究テーマ

(これまで)

1. “風評被害”発生 of 心理的メカニズム
2. 買い控え of 低減に有効な消費者コミュニケーション

(これから)

3. 災害状況下における消費者の購買行動
4. フードファディズムが生じる心理的メカニズムの検討



Twitter: @dr_strlv

1-1.研究の背景①

• フードファディズムとは？

- 科学が実証した事実に関係なく，何らかの食品や栄養が健康と病気に与える影響を誇大に信奉すること (Knanarek & Marks-Kaufman, 1991)
- 正直聴き慣れない概念ですよね？
- **私の研究の内容は置いといて，今日はこの概念を憶えて帰って貰えたら幸いです**

1-1.研究の背景②

- で, どんな現象よ? (e.g., 井上ら, 2018; 高橋, 2007)
 - ある特定の食品が「健康によい」とメディアに取り上げられることにより発生
 - 納豆ダイエット → 店頭で売り切れ
 - 白いんげん豆ダイエット → 集団食中毒
 - 健康被害や経済的損失 (e.g., 左巻, 2014; 高橋, 2007)

最近だと某乳酸菌飲料の流行などが
フードファディズムにあたります



1-2. 先行研究

• 社会学や家政学からのアプローチ

- どのような現象が生じたかといった事例検証
- フードファディズムを総覧する点では重要
(e.g., 松永, 2007; 中西, 2010; 高橋, 2007)

• 心理学からのアプローチ

- 人の認知特性に着目しているがまだ少ない
- 関連要因の探索的検討となっている
(e.g., 井上ら, 2018; 工藤, 2020)
- そろそろ嗜好品との関連について検討した論文が出ますのでまた読んでください～

(小川・工藤・李, 印刷中)

1-3.研究の目的

• 研究の目的

- フードファディズムがなぜ生じるかについて、メディアの影響が指摘されてきた
(e.g., 松永, 2007; 高橋, 2007)
 - 具体的な実証研究は行われていない
- 心理学における先行研究でも、メディアの影響についてはほぼ触れられてこなかった
(e.g., 井上ら, 2018; 工藤, 2020)
 - フードファディズム傾向に対するメディア接触の影響を検討することを目的とする
 - シンプルな相関研究から始めましょう

2-1.方法

- 調査実施時期

- 2021年11月

- 参加者

- 全国の成人男女302名（女性159名，男性138名，その他5名）
- 平均年齢38.88 ($SD = 9.83$) 歳

- 手続き

- オンライン上での調査
- DQS質問によるスクリーニングを行い300名のデータを採用

2-2.使用する要因

- 参加者のデモグラフィック変数

- 年齢, 性別, 居住地域, 学歴, 婚姻状況, 子供の有無, 世帯年収

- 各メディアへの情報接触 (6件法)

- 「食の健康に対する効果に関する情報をどのようなメディアから得ていますか？」
- テレビ, ラジオ, 新聞, 雑誌, 書籍, SNS, YouTube, ネット記事 (個人), ネット記事 (専門家), 学術論文

• 従属変数

- フードファディズム傾向尺度 (土岐, 2013, 2014)
- 下位尺度を使用
- 健康情報の影響, 食品のカロリー, 食品の安全性, 食生活の規律性, 食品への依存, トクホ, ジャンクフード
- **説明変数→各従属変数の重回帰分析**

3.結果

Table 1 「健康情報の影響」に対する各要因の影響

	β	95%下限	95%上限	VIF
性別	-.089	-0.203	0.024	1.310
年齢	-.041	-0.166	0.084	1.479
最終学歴	.034	-0.075	0.143	1.118
結婚状況	.012	-0.117	0.141	2.105
子供の有無	.130 *	0.001	0.260	1.947
世帯収入	-.044	-0.148	0.061	1.286
テレビ	.279 **	0.179	0.379	1.145
ラジオ	-.084	-0.212	0.043	1.500
新聞	.077	-0.060	0.214	1.686
雑誌	.136 *	0.012	0.259	1.549
書籍	.068	-0.059	0.195	1.658
SNS	.068	-0.071	0.207	1.665
YouTube	.148 *	0.004	0.292	1.634
ネット記事(個人)	.097	-0.041	0.235	1.980
ネット記事(専門)	.108 +	-0.018	0.233	1.924
学術論文	-.025	-0.138	0.087	1.428
R^2	.307 **			

** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$

- **健康情報から影響を受ける程度と各要因の関連**

- 子供がいる人ほど健康情報からの影響を受けやすい
- テレビや雑誌をよく観る・読む人ほど影響を受けやすい
- YouTubeをよく視聴する人ほど影響を受けやすい
- 専門家のネット記事を閲覧する人ほど影響を受けやすい

Table 2 「食品のカロリー」に対する各要因の影響

	β	95%下限	95%上限	VIF
性別	-.033	-0.157	0.090	1.310
年齢	-.046	-0.180	0.089	1.479
最終学歴	.029	-0.104	0.161	1.118
結婚状況	.019	-0.139	0.178	2.105
子供の有無	-.052	-0.196	0.092	1.947
世帯収入	.073	-0.049	0.195	1.286
テレビ	-.079	-0.206	0.048	1.145
ラジオ	-.076	-0.209	0.057	1.500
新聞	.074	-0.067	0.216	1.686
雑誌	.040	-0.107	0.188	1.549
書籍	.089	-0.068	0.245	1.658
SNS	-.026	-0.176	0.125	1.665
YouTube	.165 *	0.021	0.308	1.634
ネット記事(個人)	-.003	-0.178	0.171	1.980
ネット記事(専門)	.108	-0.049	0.266	1.924
学術論文	-.069	-0.224	0.085	1.428
R^2	.071 **			

** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$

- **食品のカロリーを気にする程度と各要因の関連**
 - YouTubeをよく視聴する人ほどカロリーを気にする

Table 3 「食品の安全性」に対する各要因の影響

	β	95%下限	95%上限	VIF
性別	-.030	-0.155	0.094	1.310
年齢	-.013	-0.154	0.128	1.479
最終学歴	.090	-0.023	0.204	1.118
結婚状況	.030	-0.131	0.191	2.105
子供の有無	.051	-0.096	0.197	1.947
世帯収入	-.005	-0.121	0.112	1.286
テレビ	.024	-0.079	0.126	1.145
ラジオ	.039	-0.096	0.173	1.500
新聞	.145 +	-0.006	0.296	1.686
雑誌	.046	-0.096	0.187	1.549
書籍	.147 +	-0.014	0.309	1.658
SNS	-.142 *	-0.284	-0.001	1.665
YouTube	.173 *	0.035	0.311	1.634
ネット記事(個人)	.175 *	0.023	0.327	1.980
ネット記事(専門)	-.096	-0.239	0.047	1.924
学術論文	-.047	-0.190	0.096	1.428
R^2	.167 **			

** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$

• 食品の安全性を気にする程度と各要因の関連

- SNSをよく視聴する人ほど食品の安全性を気にしない
- YouTubeをよく視聴する人ほど食品の安全性を気にする
- 個人発信のネット記事をよく閲覧する人ほど食品の安全性を気にする
- 新聞をよく購読する人ほど安全性を気にする（10%水準）
- 書籍をよく購読する人ほど安全性を気にする（10%水準）

Table 4 「食生活の規律性」に対する各要因の影響

	β	95%下限	95%上限	VIF
性別	-.003	-0.128	0.122	1.310
年齢	.151 *	0.017	0.285	1.479
最終学歴	.157 **	0.047	0.267	1.118
結婚状況	-.046	-0.222	0.130	2.105
子供の有無	.044	-0.117	0.205	1.947
世帯収入	-.033	-0.165	0.099	1.286
テレビ	.183 **	0.057	0.308	1.145
ラジオ	-.057	-0.205	0.090	1.500
新聞	.127 +	-0.018	0.273	1.686
雑誌	.027	-0.105	0.159	1.549
書籍	-.057	-0.201	0.087	1.658
SNS	.018	-0.120	0.155	1.665
YouTube	.034	-0.109	0.176	1.634
ネット記事(個人)	.040	-0.122	0.202	1.980
ネット記事(専門)	.079	-0.070	0.228	1.924
学術論文	-.103 +	-0.128	0.020	1.428
R^2	.136 **			

** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$

• 規則正しい食生活を気にする程度と各要因の関連

- 年齢が高い人ほど規則正しい食生活を気にする
- 最終学歴が高い人ほど規則正しい食生活を気にする
- テレビをよく視聴する人ほど規則正しい食生活を気にする
- 新聞をよく購読する人ほど規則正しい食生活を気にする
(10%水準)
- 学術論文をよく購読する人ほど規則正しい食生活を気にしない (10%水準)

Table 5 「食品への依存」に対する各要因の影響

	β	95%下限	95%上限	VIF
性別	.151 **	0.039	0.263	1.310
年齢	-.062	-0.192	0.068	1.479
最終学歴	.123 *	0.014	0.232	1.118
結婚状況	.050	-0.097	0.198	2.105
子供の有無	-.012	-0.161	0.136	1.947
世帯収入	.053	-0.060	0.167	1.286
テレビ	.075	-0.032	0.182	1.145
ラジオ	.055	-0.073	0.183	1.500
新聞	.088	-0.041	0.217	1.686
雑誌	.039	-0.100	0.177	1.549
書籍	.074	-0.063	0.210	1.658
SNS	-.081	-0.195	0.032	1.665
YouTube	.282 **	0.171	0.393	1.634
ネット記事(個人)	.224 **	0.073	0.374	1.980
ネット記事(専門)	-.074	-0.204	0.056	1.924
学術論文	.116 +	-0.015	0.248	1.428
R^2	.267 **			

** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$

• サプリや食品への依存の程度と各要因の関連

- 女性ほどサプリや食品に依存しやすい
- 最終学歴が高い人ほどサプリや食品に依存しやすい
- YouTubeをよく視聴する人ほどサプリや食品に依存しやすい
- 個人発信のインターネット記事をよく閲覧する人ほどサプリや食品に依存しやすい
- 学術論文をよく購読する人ほどサプリや食品に依存しやすい

Table 6 「トクホ」 に対する各要因の影響

	β	95%下限	95%上限	VIF
性別	.081	-0.045	0.208	1.310
年齢	-.096	-0.231	0.039	1.479
最終学歴	.069	-0.057	0.194	1.118
結婚状況	-.003	-0.165	0.158	2.105
子供の有無	.019	-0.132	0.171	1.947
世帯収入	.063	-0.050	0.176	1.286
テレビ	.182 **	0.075	0.288	1.145
ラジオ	-.031	-0.168	0.105	1.500
新聞	.145 *	0.004	0.287	1.686
雑誌	.023	-0.119	0.166	1.549
書籍	.075	-0.070	0.220	1.658
SNS	.035	-0.093	0.163	1.665
YouTube	.236 **	0.107	0.365	1.634
ネット記事(個人)	-.058	-0.222	0.107	1.980
ネット記事(専門)	.048	-0.104	0.200	1.924
学術論文	.067	-0.086	0.220	1.428
R^2	.170 **			

** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$

- **トクホの使用の程度と各要因の関連**

- テレビをよく視聴する人ほどトクホを使用しやすい
- 新聞をよく購読する人ほどトクホを使用しやすい
- YouTubeをよく視聴する人ほどトクホを使用しやすい

Table 7 「ジャンクフード」 に対する各要因の影響

	β	95%下限	95%上限	VIF
性別	-.019	-0.150	0.111	1.310
年齢	.021	-0.125	0.167	1.479
最終学歴	.083	-0.023	0.189	1.118
結婚状況	-.025	-0.186	0.136	2.105
子供の有無	-.110	-0.276	0.056	1.947
世帯収入	.047	-0.078	0.171	1.286
テレビ	-.088	-0.207	0.031	1.145
ラジオ	.044	-0.098	0.185	1.500
新聞	.109	-0.039	0.257	1.686
雑誌	-.123 +	-0.263	0.018	1.549
書籍	.167 +	-0.012	0.346	1.658
SNS	-.130 +	-0.268	0.009	1.665
YouTube	.169 *	0.036	0.302	1.634
ネット記事(個人)	.037	-0.118	0.191	1.980
ネット記事(専門)	-.035	-0.176	0.105	1.924
学術論文	.039	-0.105	0.184	1.428
R^2	.112 *			

** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$

• ジャンクフードの選好の程度と各要因の関連

- 雑誌をよく購読する人ほどジャンクフードを選好する
(10%水準)
- 書籍をよく購読する人ほどジャンクフードを選好しない
(10%水準)
- SNSをよく閲覧する人ほどジャンクフードを選好しない
(10%水準)
- YouTubeをよく視聴する人ほどジャンクフードを選好する

4. 考察

• 旧来のメディアの影響

- テレビや雑誌等，旧来のメディア媒体への接触からフードファディズム傾向への影響が強い
 - 健康情報番組・記事等の影響が已然として強いことが示唆

• 新しいメディアの影響

- YouTubeや個人発信のネット記事の影響も強い
 - 健康情報が氾濫，玉石混交の情報
 - **消費者は「わかりやすさ」重視の情報選択**
 - 認知的コストの省減（工藤，2020）

• 安全情報や専門家のプレゼンスの低下

- SNSの情報が、食品の安全に対するこだわりを抑制している可能性
 - 不可欠な安全情報のプレゼンスを毀損？
- 専門家発信のネット記事や、学術論文によるフードファディズム傾向の抑制的影響は小さい
 - **専門家のプレゼンスの小ささ**
 - 専門家や専門機関による情報が蔑ろにされている可能性（高橋, 2007）
 - **そもそも情報へのアクセスが難しい？**

• 専門家とフードファディズム傾向

– 論文を読む人ほど食生活が乱れ，サプリに頼る傾向（10%水準）

→ 専門家がフードファディズム的生活を送っているかもしれない皮肉な可能性

• 子供の有無による媒介効果

– 子供がいることにより，健康情報や栄養へのこだわりが強くなる可能性

→ メディア接触が高くなる媒介効果が示唆

• まとめ

- 旧来のメディアの影響に加え，SNSやYouTubeといった媒体への接触がフードファディズムと関連している可能性
- 今回の発表内容については，私のサイトにて公開しますので，ご意見・ご感想を頂けると幸いです
- 某学会で引くほど盛り上がらなかったもので，何かコメントを貰えると小躍りします